



実践的防災訓練事例集



神奈川県教育局指導部
保健体育課保健安全グループ

目次

I 地域と連携した実践的防災訓練

(1) 大磯高等学校	1
(2) 津久井支援学校	3
(3) 高津支援学校	5
(4) 相模原中央支援学校	7
(5) 岩戸支援学校 (1)	9
(6) 岩戸支援学校 (2)	11
(7) 座間高等学校	13

II 文部科学省 学校安全総合支援事業

■ 川崎工科高等学校	16
■ 藤沢市教育委員会 (大清水中学校)	19
■ 横須賀市教育委員会 (公郷中学校、池上中学校、岩戸小学校、夏島小学校)	21

大磯高等学校

名 称	大磯町防災拠点による被災訓練	
日 時	令和7年8月16日（土）12時30分～令和7年8月17日（日）12時	
実施場所	体験場所等：ノジマ大磯スクウェア、大磯高校	
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・震災時の備えや、この地域の被災時の想定を学ぶ。 ・Dig研修にて机上想定し、現地調査を行い差異を学ぶ。 ・被災を想定し、段ボールベッドの組立てや、保存食の調理を学ぶ。 ・被災時の様々な場面を想定し、現地調達で担架等を使用する。 	
主 催	学校主催（大地震等の災害時を想定）	
参加人数	参加生徒16名 ・ 教員3名	
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・実施日に宿泊施設の予約 ・大磯町役場危機管理課に出前講座（防災）の依頼 ・大磯消防署に消火訓練（水消火器による消火訓練）の依頼及び、火災と紛らわしい行為届出 	
実施内容	<p><防災学習></p>  <p>【地震について知ろう】</p> <p><水消火器訓練></p>  <p>【消防署と連携した訓練】</p>	<p><物資運搬></p>  <p>【一輪車での運搬】</p> <p><避難所開設></p>  <p>【地域の方と避難所開設】</p>

参加者の 主 な 声	<p>【生徒】</p> <p>○普段学校で行う防災訓練より楽しく学ぶことができた。</p> <p>○DIGにより想定したことが現地を確認すると不可能とわかる箇所が多いことを学べた。</p> <p>○火付けが想像よりも数倍難しいことがわかった。また、消火器訓練は楽しかった。</p> <p>○防災スポーツ全般で周りの物を使って代用ができると楽しく学べた。</p> <p>【教員】</p> <p>○想像しているよりも生徒の防災意識が高かった。</p> <p>○実際に被災した際、周りの物で代用できることを伝えられて良かった。</p>
工夫した点	<p>○基礎知識を学んだあとに自分たちで考え実行させることを優先させた。</p> <p>○班で考えることにより、他の人と考えの共有を促した。</p> <p>○着眼点を広く持つてもらうために様々な身近な道具で訓練を行った。</p>
成果	<p>○ほぼ全員の感想に楽しく学ぶことができたことや、防災を意識した際に周囲に何があると危険で何があると安全かわかるようにさせた。</p> <p>○身近な道具でも使い方によっては違う使い方で使用できることを実感させた。</p> <p>○周囲と考えを共有することで時間の短縮や新しい考えが生まれることを実感させた。</p>
課題	<p>○金額の問題で株式会社シンクに依頼して防災スポーツを行うことができず、他の訓練を行うことが出来なかった。</p> <p>○来年度も同じ参加者の場合に、内容をアップデートする必要がある。</p>
まとめ	<p>全体的に落ち着いて行うことができた。生徒それぞれの意識に災害の危険性や対処法の一部を伝えることができ、良い訓練になったと考える。</p> <p>DIGに関しても地図上でやるだけにせず、現地で道などの確認をすることで、実際に避難することができるかなどを認識させることができた。また、火付けや毛布担架などの被災時に行う行動は生徒にとって新鮮な内容となった。</p> <p>今回の宿泊訓練によって新しい知識と共に考える大切さを実感させることができたと考えます。</p>

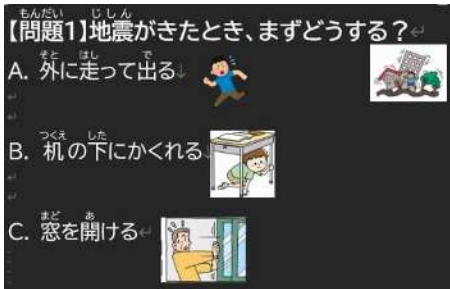

津久井支援学校

名 称	高等部 1 年防災宿泊学習		
日 時	令和 7 年 9 月 12 日（金） 8 時 30 分～令和 7 年 9 月 13 日（土） 10 時 15 分		
実施場所	体験場所等：体育館、調理室		
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の対応を想定し、地域との関わりや保護者引き取りを経験する。 ・ 地震によっておこる危険と安全な避難の仕方について理解し、適切な行動がとれるようになる。 ・ 相手の立場になって助け合い、自分の役割を自覚し、協力して行動する態度を養う。 		
参加人数	参加生徒 14 名 ・ 教員 13 名 地域住民 1 名		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施計画の立案（防災宿泊学習、DIG（災害図上訓練）、避難所設営実施、避難所解体、保護者引き渡し訓練） ・ 防災宿泊学習に関する事前学習 ・ 地域住民への案内作成と配付 ・ 参加教員との事前打ち合わせ ・ 非常食、レンタル毛布等の防災物品の発注 ・ 防災倉庫にある防災用品の確認 ・ AR ゴーグルの借用 		
実施内容	<div> <div> <p>＜防災学習＞</p> <p>【AR 防災体験】</p>  </div> <div> <p>＜物資運搬＞</p> <p>【防災物品の運搬】</p>  </div> </div> <div> <div> <p>＜DIG（災害図上訓練）＞</p> <p>【DIG の様子】</p>  </div> <div> <p>＜避難所開設＞</p> <p>【地域の方と避難所開設の様子】</p>  </div> </div>		

<p>実施 内容</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><夜間校内歩行> 【夜間校内歩行体験の様子】</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p><引き取り引き渡し訓練> 【引き取り引き渡し訓練の様子】</p>  </div> </div>
<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】 ODIG（災害図上訓練）学習では、がけ崩れが起こりやすい場所や川のちかくは危険なことがわかった。 ○避難所設営のテント立ては、事前の練習を何回かやってできるようになった。当日はスムーズにできた。 ○AR ゴーグル体験をしてみて、災害の様子がよくわかった。</p> <p>【教員】 ODIG 学習では、学校周辺の地形や地域の資源がわかり参考になった。 ○ライフラインが止まってしまった時や学校待機になってしまった時の備えについて、普段から考える必要があることを強く感じた。</p>
<p>工夫 した点</p>	<p>○生徒が目的意識を持って宿泊に取り組めるよう、計画的に事前学習を行った。 ○地域との防災に関する連携協力体制の増進を図れるよう、地域の方に参加・見学いただいた。 ○災害の恐怖やリスクを理解できるよう AR ゴーグルを使っでの学習を設定した。</p>
<p>成果</p>	<p>ODIG 学習では地域の方もグループに入り参加いただいたことで、地域の特性を踏まえた具体的なアドバイスを受けることができた。 ○AR ゴーグルを取り入れたことで、臨場感を持って災害時の疑似体験をすることができた。 ○テント設営や非常用物資の確認を事前に繰り返し行ったことで、当日も自主的に行うことができた。</p>
<p>課題</p>	<p>○引き渡し訓練のマニュアルをブラッシュアップする必要がある。 ○各防災物品の保管場所がわかりづらく、今後、整理・見直しの必要がある。</p>
<p>まとめ</p>	<p>○実際に避難所を想定した環境で一夜を過ごすことで、災害時の生活における課題や必要な配慮について、具体的に理解を深めることができた。また、教職員や生徒が協力し合いながら活動することで、助け合う姿勢や安心して過ごすための工夫が自然と育まれた。こうした体験は、災害への備えとして非常に有意義であり、今後の防災教育にもつながるものである。</p> <p>○地域の方に参加いただき、実践的かつ有意義な訓練を実施することができた。地域住民の協力は、災害時の連携体制の強化や防災意識の向上に大きく寄与するものであり、今後も継続的な参加と協力をお願いしたい。</p>

高津支援学校

名 称	高等部 1 年防災宿泊学習
日 時	令和 7 年10月 3 日（金）15時00分 ～ 令和 7 年10月 4 日（土） 9 時30分
実施場所	体験場所等：高津支援学校内 体育館、音楽室、プレイルーム等
学習の ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時を想定した学校での宿泊体験を通し、防災意識を高める。 ・ 災害時対応訓練を通し、役割を意識した行動がとれるようになる。 ・ 様々な災害時対応体験を通し、自分の命を守る力を身に着ける。
主 催	学校主催（大地震等の災害時を想定）
参加人数	参加生徒 17 名、教員 9 名 計 26 名
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所設営用及び災害時対応訓練用物品の準備、非常食等の発注 ・ 防災学習、訓練、体験内容の検討、準備 ・ 参加生徒、保護者への連絡、調整
実施 内容	<div> <div> <p>＜防災学習＞</p> <p>【避難所での過ごし方・ハザードマップづくり】</p>  </div> <div> <p>＜物資運搬＞</p> <p>【段ボール・毛布等の運搬】</p>  </div> </div> <div> <div> <p>＜避難所開設＞</p> <p>【段ボールで居住空間の設営】</p>  </div> <div> <p>＜がれき歩行体験＞</p> <p>【がれきに見立てたペットボトルキャップの上を歩行】</p>  </div> </div> <div> <div> <p>＜簡易トイレ設置体験＞</p> <p>【簡易トイレの設置・凝固剤実験】</p>  </div> <div> <p>＜非常食調理・喫食体験＞</p> <p>【非常食（豚汁、アルファ米）の調理・喫食】</p>  </div> </div>

	<p>＜暗闇歩行体験＞</p> <p>【懐中電灯の明かりで校内歩行・クイズラリー】</p>  <p>＜保護者引き取り訓練＞</p> <p>【災害時の引き渡し手順の確認】</p> 
参加者の主な声	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○段ボールを協力して運べた。 ○暗闇歩行体験が楽しかった。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○経験したことのない体験学習が多く、関心を持ち取り組む様子が見られた。 ○これまでの宿泊学習とは異なる経験ができた。
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ○事前学習で、災害による避難所生活の様子を動画で見たり、居住空間の設営や非常食の調理喫食体験をしたりすることで、見通しを持てるようにした。 ○暗闇体験では、夜間の校内歩行とともに防災に関わるクイズラリーを行い、今までの学習も振り返りながら取り組めるようにした。 ○実際の避難所を想定し、居住空間設営を行った。一人で設営することの困難さや他人との距離感、プライバシーの問題等、体験できるように設定した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○体育館での宿泊という体験により不便さや不安な気持ちを体感し、正しく恐れて備えることや居住空間の設営等、周囲と協力することの大切さを学ぶ機会となった。 ○避難所での過ごし方以外に、節水方法やハザードマップづくり、防災ポーチづくり等の事前学習を行った。それを踏まえて防災宿泊学習に臨むことで、実際の災害時をイメージしながら宿泊することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○予定や内容の確認は事前に繰り返し行っていたが、学校に泊まるという不規則なことに混乱している生徒もいた。 ○自立度を問わず、生徒が主体的に参加できる体験活動の工夫が必要である。 ○本来の避難所では、一般の地域住民と同じ空間で過ごすことになるため、自分の居住空間で静かに過ごす練習が必要だと感じた。 ○保護者引き取り訓練も兼ねて実施したが、引き取り時間（9:30～9:50）が早いという声があった。また、引き取り訓練の職員の動きについて学校全体で確認する必要がある。
まとめ	<p>今年度は本校高等部1年生が宿泊行事として実施した。この学年の生徒は、学校に宿泊することが初めてだった。あまり快適ではない空間で過ごしたが、防災に関わることや当日の日程等について事前学習を重ねたことにより、見通しを持って落ち着いて参加できた生徒が多かった。また、今回の経験から自分たちに必要な準備物等考えられるよう、系統性のある学習を今後も続けたい。</p>



相模原中央支援学校

名 称	防災宿泊訓練
日 時	令和7年10月10日（金）13時30分～令和7年10月11日（土）11時00分
実施場所	体験場所等：体育館、自立活動室、流通室、農園芸室、環境整備室、 中学部作業室等
学習の ねらい	・災害時における危険性を理解するとともに、災害が発生した場合に、安全で適切な行動ができるようになる。
主 催	学校主催（大地震等の災害時を想定）
参加人数	参加生徒 35 名 ・ 教員 14 名
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災用食品、レンタル寝具等の発注 ・ 学年教員、応援教員、安全対策チーム員での訓練内容等の打ち合わせ ・ 防災リュックの準備、防災教育（震度体験、初期消火（投てき）、避難所体験）
実施 内容	<div> <div> <p>＜避難訓練＞</p>  </div> <div> <p>＜避難所開設＞【段ボールベッドの組み立て】</p>  </div> </div> <div> <div> <p>＜防災用食品喫食訓練＞ 【防災用食品を食べる】</p>  </div> <div> <p>＜救急処置法講習＞ 【担架での搬送】</p>  </div> </div> <div> <div> <p>＜救急処置法講習＞ 【CPR訓練】</p>  </div> <div> <p>＜初期消火体験＞ 【水消火器を用いた消火】</p>  </div> </div>

参加者の 主な声	<p>【生徒】</p> <p>○救急法や搬送法の体験を通して、自分にできそうなことを見つけることができた。いざという時にできるよう忘れないようにしたい。</p> <p>○体育館での生活は、物音が響いてしまうので夜足音を立てないようにするのが大変だった。</p> <p>○防災用食品が美味しかった。いろいろな種類があるのがわかった。</p> <p>【教員】</p> <p>○事前学習では、起震車を呼んでの震度体験、避難所で使用されるプライベートテント、初期消火体験(投てき)など体験的な学習が多く生徒もイメージを持つことができたと思う。</p> <p>○防災宿泊を通して、有事のときの体験ができるので高校3年間の生活のどこかで体験できるとよい。</p>
工夫 した点	<p>○事前に校外学習で総合防災センターに行くことで、防災に関する意識を持つようにした。(震度体験は事故があったためできなかった。消火体験は時間がなくできなかった)</p> <p>○事前学習で震度体験、消火体験ができたことで災害に対するイメージを持ちながら適切な行動を確認できるようにした。</p> <p>○宿泊中の訓練では、予告なしのシェイクアウト訓練を行い、いつ災害が起きるかわからないことを体験的に学んだ。</p> <p>○救急法や搬送法は毎年取り組んでいたが、今回は初めて胸骨圧迫を訓練に盛り込んだ。発災時に「自分にできること」を見つけられるようにした。</p>
成果	<p>○防災に関する事前学習と宿泊の体験を通して、防災に関する知識、関心を高めることができた。</p> <p>○日頃の備えが大事であることを体験的に学ぶことができた。</p> <p>○段ボールベッド作りや救急処置法訓練等の体験により、災害時に協力することを具体的にイメージしながら活動することができた。</p> <p>○夜間歩行訓練では、防災時に必要な物品や水の量を考えるゲームを取り入れ、生徒が自ら考えたり、周囲の人と話し合ったりすることができた。</p>
課題	<p>○体調管理を行っていたが、夜発熱してしまった生徒がいた。学校の固定電話が17時で自動音声になってしまうため、緊急時には学校携帯から保護者へ連絡することを事前に伝えておく必要があった。</p>
まとめ	<p>事前学習と避難所生活の体験を通して、防災に対する意識を高めることができた。参加者が自主的に協力して行動できていたため、活動の準備や片付けが円滑に進んでいた。今後も日頃から防災や自然災害への関心を持たせるようにするとともに、授業や体験学習の機会を持つことで、生徒・教員がより防災意識を高められるようにしていきたい。</p>

岩戸支援学校（１）

名 称	防災学習訓練【肢体不自由教育部門】
日 時	令和７年10月22日（水） 10時30分～11時15分
実施場所	体験場所等：岩戸支援学校校内
学習のねらい	・災害、安全、防災に関する知識や意識を身に付ける。
主 催	学校主催（大地震等の災害時を想定）
参加人数	参加生徒 6 名 ・ 教員 4 名
事前準備	【肢体不自由教育部門】 10 月 3 日～10 月 22 日
実施内容	<p><防災学習> 【地震体験】</p>   <p>【水消火器訓練】</p>   <p>【非常口や消火器の設置場所確認】</p>  

<p>実施 内容</p>	<p><防災食体験></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>参加者 の 主な声</p>	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ヘルメットを被ることや緊急地震速報の音が鳴っても、落ち着いて教員の話聞き、行動することができた。 ○水消火器を使って、火の看板を消すことができた。 ○消火器の使用手順（ピンを抜く→ホースをぬく→レバーを握る）を確認できた。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災について、地震や火事など色々な場面の取り組みができ、たくさんの経験ができたと思う。 ○消火器の設置場所や車いすでの避難経路の確認ができた。
<p>工夫 した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○やわらかいご飯やゼリーなど、それぞれの食形態に応じた防災食を準備した。また、加熱したレトルトを開けたり、生徒自身ができる範囲で食器に盛り付けの準備などに参加し、食べる意欲がわくようにした。 ○ヘルメットの上から柔らかい物を落としたり、固い物を当てたりして、ヘルメットが頭を守っていることを学べるようにした。
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○防災に関する意識を高めることができた。 ○ヘルメットの大切さや消火器の使い方を学び、体験することができた。
<p>課題</p>	<p>○防災学習について、1年生は初めての体験だったが、2年生は昨年の経験を生かして、活動に取り組むことができた。3年間を通して実施できると防災についての学習内容がより積み重ねられるのではないかと思います。防災について考える時間は少く、継続的に取り組んでいくことが課題である。</p>
<p>まとめ</p>	<p>○自然災害について授業で取り組むことによって、水消火器など初めての体験や避難経路を改めて確認することができた。日常生活のなかでも、継続的に災害についての話を深めて指導していきたい。</p>





岩戸支援学校（２）

名 称	防災学習（宿泊）訓練【知的障害教育部門】	
日 時	令和 7 年10月 3 日（金） 13時45分～令和 7 年10月 4 日（土）11時00分	
実施場所	体験場所等：岩戸支援学校校内	
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常事態を想定し、防災に関する体験や実践を通して、自らの命をまもるちからを育成する。 ・ 災害時を想定して学校に宿泊する体験をする。 	
主 催	学校主催（大地震等の災害時を想定）	
参加人数	参加生徒 26 名 ・ 教員 15 名	
事前準備	【知的障害教育部門】 9 月 25 日～10 月 3 日	
実施内容	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>＜防災学習＞ 【VR を活用した消火体験】</p>  <p>＜起震車体験＞ 【消防署と連携した訓練】</p>  <p>＜水消火器訓練＞ 【消防署と連携した訓練】</p>  </div> <div style="width: 48%;"> <p>＜防災用具の製作＞ 【簡易ランタン作り】</p>  <p>＜夜間校内探索＞ 【非常口や消火器を確認する訓練】</p>  <p>＜喫食訓練＞ 【非常食の喫食訓練】</p>  </div> </div>	

参加者の 主 な 声	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○非常食がとってもおいしかった。 ○普段おいしい食事を食べられていることに感謝です。 ○消火体験や起震車体験ができて次に地震が起きた時にどう行動すればよいか分かった。 ○清潔感を保つことは（清拭）、健康を保つことと周りに不快感を与えないことだと分かった。 ○寝るところの床が思ったより硬かったので、あまり寝られなかった。 ○避難する場所が分かってよかった。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多くの体験をすることで、防災意識が高くなったと思う。 ○防災マップ作りは、自分たちで考えるのにとってもよい学習だった。 ○起震車や水消火器を実際に体験し、災害・防災を身近に感じられた。
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ○事前学習の中で、3グループ（防災食グループ、清拭グループ、防災グッズグループ）に分かれることで、当日その場面になった時に教え合う場面やリーダーとして引っ張る場面が多く見られた。 ○防災マップ作りでは、生徒が利用することが多い地域を担当し、地図というあまりなじみのないものでもイメージがしやすいようにした。 ○起震車や水消火器の体験や、夜間の校内を探索し非常扉等の表示を見つける体験をしたことで、災害にあったらどうするのかを考えやすくした。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○今回の経験が、災害時の自助・共助に役に立つと思うという生徒が多かったことから、自分の取るべき行動について学ぶことはできたと思われる。 ○防災に対する意識を高めることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○防災の学習は多岐にわたり、防災宿泊に向けての学習だけではなく、普段の授業内容として「防災」を取り入れていくことも必要である。 ○3年間を通して、どのように防災学習を積み重ねていくか、系統的な学習プログラムを組んでいくことが課題である。
まとめ	<p>防災宿泊学習では、防災食・清拭・防災グッズの3つのグループに分かれ、事前学習から意欲的に取り組むことができた。調理や清拭の体験、非常用品の確認を通して、災害時に必要な知識や技能を実践的に学んだ。宿泊当日は、仲間と協力しながら限られた環境で生活し、助け合いや思いやりの大切さを感じ取る姿が見られた。事前の学びを生かし、落ち着いて行動する様子や、自分の役割を意識して動く姿も多く見られ、学習を通して防災意識と自立心を育む貴重な機会となった。</p>

座間高等学校

名 称	実践的防災訓練
日 時	令和 7 年12月24日（水）8時50分～令和 7 年12月24日（水）15時40分
実施場所	体験場所等：本校グラウンド、本校会議室
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーション（クロスロード）により、知識に基づき正しく判断する力を訓練する。 ・実動訓練により行動の機会付与と行動変容を確認する。 ・自助・共助を意識して臨機応変に対応する。 ・AR（拡張現実）ゴーグルを用いて、実際に洪水や河川の氾濫、火事が起きた際にどのように行動すればいいのかを学ぶ。 ・実際に発災した時のことを想定し、3分・3時間・3日間に分けて「しなければならないこと」を考える。
主 催	学校主催（大地震等の災害時を想定）
参加人数	参加生徒 859 名 ・ 教員 50 名
事前準備	防災委員による防災訓練の企画、準備、訓練参加者、関係者との調整
実施内容	<p>＜実際に重傷者を運ぶ様子＞</p>  <p>＜雨天のため、体育館へ避難中＞</p>  <p>＜重傷者役（教職員）＞</p>  <p>＜避難完了後、講評中＞</p> 

実施内容	<p>＜iPad を用いた疑似災害体験＞</p>  <p>＜防災ワークショップ＞</p> 	<p>＜AR ゴーグルを用いた消火体験＞</p>  <p>＜ワークショップで学んだことを発表＞</p> 
参加者の 主 な 声	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none">○階段付近で人が滞留していることがあった。人が多く避難経路がすごく混むのが大変だと思った。○実際に緊急地震速報が流れてびっくりしたが、実際に災害があるときも同じような音声が流れると思うので落ち着いて行動したい。○少し人に流されてしまう部分はやっぱりあったので改善したいです。○スモークがなかったから火災の意識があまりできなかった。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none">○3年生の生徒は3年目ということもあり、かなり落ち着いて行動できていた。特にシェイクアウト訓練では机の中に入り、頭を隠す動作がかなり早くなっていて自助する姿勢が身に付いていると感じた。○ここまでリアルでやっていることに驚いた。生徒たちもふざける様子なく、真剣に防災訓練に取り組んでいる姿勢を見ることができ、こちらも勉強になった。事前学習資料の動画も毎回作っていることにも驚いた。○今後の課題として、防災備蓄食料などの倉庫点検など防災委員の活動の幅がもっと増えると学校全体としての取り組みが活発になるのではないかなと思った。	

工夫した点	<p>○防災委員の生徒による訓練及び事前教育の企画・設計・運営</p> <p>○行動変容を目指した教育プログラム</p> <p>○災害の疑似体験</p> <p>○地域と連携した防災ワークショップの実施</p>
成果	<p>○防災委員が中心となり、昼休みや放課後の時間を使い、主体的に行動できた。</p> <p>○雨天時の開催であったが、大きな混乱がなく全体として落ち着いて避難できていた。</p> <p>○事前学習で学んだことが実際の避難訓練で活かされていた。</p>
課題	<p>○1年に1回全学年を巻き込んで行う防災訓練をどれだけ毎年変化させて持続可能にできるかが課題である。</p> <p>○避難経路の再確認や、避難時の重傷者役の介助の設定や、火災発生時の煙の取り扱いなど、もっと本格的に実際に発災したときの状況に近づけたい。</p> <p>○本番にできるだけ近い形で訓練を行いたいため、事前学習の在り方を検討したい。</p> <p>○運営面では防災委員の役割理解に若干差があり、準備の段階から防災委員への指導を徹底する。</p>
まとめ	<p>今回の訓練では、防災委員が主体となる形で企画立案し、生徒全体が防災行動を実際に体験することができた。一方で参加する生徒が「ただ避難して終わり」にならないように、その場で情報を正確に把握し、自助・共助できるような意識を育む必要があると感じた。</p> <p>また、午後の部ではARゴーグルを使って災害の疑似体験をするなど、1日を通して「リアル」な防災を追求することができた。</p> <p>今回は防災委員が主体となって企画立案したが、防災委員のみならず座間高生1人1人が防災や災害について真剣に考え、実際に発災した時でも落ち着いて情報を正確に把握し、自助・共助ができるよう意識啓発をしていく。</p>

Ⅱ 文部科学省 学校安全総合支援事業

■ 川崎工科高等学校

1 モデル地域の現状及び安全上の課題

(1) モデル地域の現状【災害安全】

○モデル地域名：川崎市中原区上平間地域

○学 校 数：小学校 2校 中学校 1校

(2) モデル地域の安全上の課題

川崎市中原区上平間地域は、多摩川付近に学校が隣接され、氾濫した場合浸水が想定されている。今後想定される災害に対して児童生徒が主体的に対応できる資質能力の育成が求められるため、訓練や研修、授業等で行っているものづくりの技術を通じて生徒や地域が主体となり防災意識を高めていけるよう推進していく。

2 モデル地域の事業目標

災害発生時において、自己の命を守り、地域の一員としての役割を果たすことができるよう、様々な防災に関する行事・訓練を通じて、生徒、教職員の防災・減災意識を涵養する。また、拠点校を中心とした「実践的防災訓練」や「D I G研修」の普及に努め、モデル地域の学校間での連携に重点を置く。

3 取組の概要

(1) 安全教育の充実に関する取り組み

ア 安全教育の充実に関する取組

(ア) 県主催のD I G研修の参加 [5月]

場所：県立総合教育センター

内容：地図を使いながら行う「災害図上訓練 (D I G)」の体験

(イ) 避難訓練(火災)の実施 [10月]

場所：県立川崎工科高等学校 各教室

内容：火災想定避難訓練

(ロ) D I G・災害図上訓練の実施 [12月]

場所：県立川崎工科高等学校 各教室

内容：学校近辺の触地図とロイロノートを活用したD I Gの体験

講師：S L災害ボランティアネットワーク



(エ) AR ゴーグルを用いた防災訓練 [12月]

場所：県立川崎工科高等学校 武道場

内容：AR 用いた災害疑似体験アプリ等を用いた避難行動等の体験

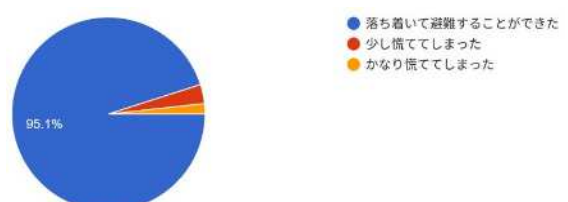
講師：板宮朋基 (神奈川歯科大学 教授)



イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

(ア) 避難訓練(火災)の検証 (アンケート結果)

Q1 落ち着いて避難することができましたか

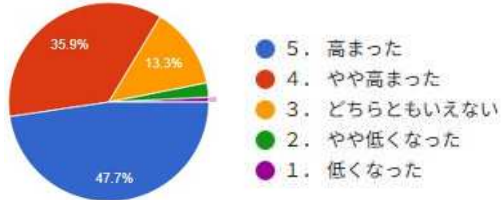


Ⅱ 文部科学省 学校安全総合支援事業

たキーホルダーの展示や製作の実演を行った。

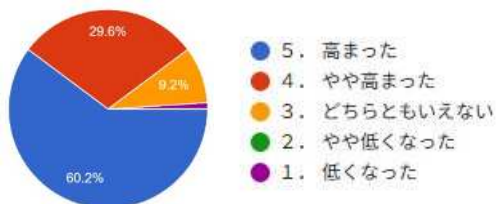
(イ) D I G・災害図上訓練の検証

Q 1 今回の体験を経て、防災意識が高まりましたか？



(ウ) AR ゴーグルを用いた防災訓練の検証

Q 1 今回の体験を経て、防災意識が高まりましたか？



(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

(ア) 職員参画型実践的防災訓練の実施 [10月]

場所：県立川崎工科高等学校

内容：AR 用いた災害疑似体験アプリ等を用いた避難行動等の体験

講師：板宮朋基（神奈川歯科大学 教授）



(イ) 平間SDG s フェスの参加 [1月]

場所：川崎市立平間小学校

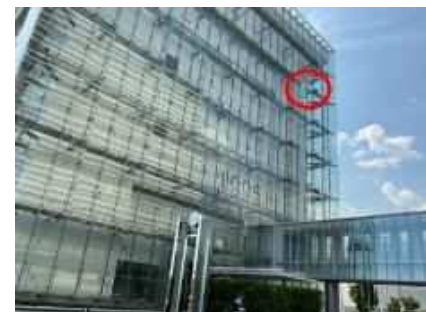
内容：D I Gで用いた触地図の展示や「川崎市防災ポータル」のQRコードが入っ

(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

(ア) 中核教員による防災学習施設の視察 [7月]

場所：人と防災未来センター（兵庫県）

内容：展示品の閲覧や、ボランティアによるレクチャーや個別相談等を受けた。



Ⅱ 文部科学省 学校安全総合支援事業

(イ) 学校安全指導者養成研修への中核教員の参加 [10 月]

場所: 独立行政法人教職員支援機構 (茨城県)

内容: 学校安全の基礎である「交通安全」・「災害安全」・「生活安全」の研修

4 取組の成果と課題

【成果】

- ・教職員向けのARゴーグルによる防災体験は、誰も経験をしたことがなかったため新たな知見を得ることができた。
- ・防災に関連したものづくりを実施したことで、生徒にも自然災害による防災は自分事である認識を持たせることができた。しかし、授業時間数の関係で完成までたどり着かなかったものもあった。

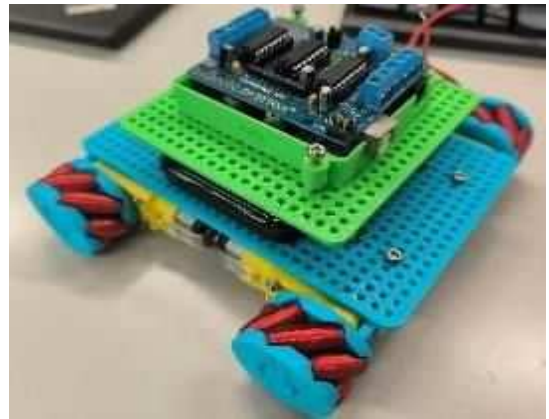
【発電装置】



【かまどベンチ】



【探査用ロボット】



- ・1 学年のD I Gで生徒が防災意識を高め、楽しく学べたと回答していることが確認できた。
- ・2 学年防災教育AR ゴーグルを用いた防災訓練でも生徒が防災意識を高め、楽しく学べたと回答していることが確認できた。
- ・平間SDG s フェスに参加したことで小学生や保護者、地域の方に本校の取組に地域の地形等を理解してもらい防災に興味関心を持ってもらうことができた。

【課題】

- ・計画にあった貸し切りバスによる防災センターへの視察が実行できなかった。
- ・地域との連携が課題。

Ⅱ 文部科学省 学校安全総合支援事業

■ 藤沢市教育委員会

1 モデル地域の現状及び安全上の課題

(1) モデル地域の現状

○モデル地域名：藤沢市（災害安全）

○学 校 数：小学校 1校、中学校 1校
高等学校 1校等

(2) モデル地域の安全上の課題

藤沢市大鋸地域は、藤沢市南東部の旧東海道沿いに位置し、横浜市戸塚区と隣接している。地理的特性により、都心南部直下地震、県西部地震、南海トラフ地震の発生が想定されるほか、境川が存在から大雨時の洪水や浸水など水害リスクも高い。多様な自然災害に対応するため、地震や火災を想定した避難訓練に加え、風水害時の河川氾濫に対する避難計画を含む地域連携体制の整備が求められている。

2 モデル地域の事業目標

防災に関する知識を身につけ、発災時に自己の命を守り、家族・地域社会の一員としての自覚を高め、行動できる生徒の育成を目指し、防災に係る多様な行事、訓練等を通して、生徒、教職員の防災・減災意識を高める。また、授業をはじめとしたあらゆる教育活動の機会を捉え実践的防災訓練の普及に努める、モデル地域の学校間で情報共有し防災力の向上を目指す。

また、拠点校の学校安全の中核となる教員が中心となり、地域全体の防災意識の向上に資するため、地域と連携した学校安全の取組を推進する。

3 取組の概要

(1) 安全教育の充実に関する取り組み

ア 安全教育の充実に関する取組

年間計画に防災教育を組み込み、特別活動や理科、社会科をはじめとして教科横断的に取り組む。そのためにも、教職員の連携強化や防災アドバイザーとの協働により、実践的な学習や訓練を推進。

具体的には、本所防災館の体験学習や被災体験者の講演会、ショート訓練を行うなど、生徒が自分事となるよう年間を通して防災教育を実施。

イ 教職員向け研修

日時：令和7年8月28日（木）

場所：藤沢市立大清水中学校

内容：大木聖子准教授防災講義・実践①

これまでの震災を通して、学校においてはど

のようなことが起こりうるのか想定した上の避難計画や訓練の重要性についての講義。実践編では、教職員が授業中を想定し各教室にいる状況で、地震が起こった際の生徒や学校を取り巻く状況の样子がわかるカードの指示をもとにした封筒訓練を実施し、災害時の多様な状況と人間関係をシミュレーションし、教職員の防災意識の向上を図る。

日時：令和7年12月23日（火）

場所：藤沢市立大清水中学校

内容：大木聖子准教授防災講義・実践②

夏の研修再確認後、通常の校内放送が使えなくなっている想定で、実践的な教職員による防災訓練を実施した。発災後の、負傷生徒の対応や情報共有の難しさなど課題発見につなげ、教職員の防災意識向上を図る。



ロ 県外有識者等による防災講話

日時：令和7年10月1日（水）

場所：藤沢市立大清水中学校

内容：防災講演会「3. 1 1を学びに変える」

（講師：佐藤敏郎氏）

講師の被災経験をもとに、地域や学校での防災意識向上と実践的な学びの必要性について講演。主体的に行動できるよう、防災を単なる知識でなく、学校生活に根付いた行動変容を図る。

ハ 体験学習

日時：令和7年7月4日（金）

場所：本所防災館

内容：生徒が「主体的に行動する態度」を育成するため、災害の特徴や仕組み、地域の災害歴史を学び、防災の大切さを知り、災害時の身の守り方と助け合いの態度を身につける。



Ⅱ 文部科学省 学校安全総合支援事業

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

取組(ア)については、生徒はいないが、実際に動いてみて課題となることが多いと感じながらも実践①②を通して、新たな共有すべき課題が生じて、定期的に全体で考える機会が必要であることを実感することができた。

取組(イ)については、講師の話を通して、何も知らないことが一番怖いことであり、避難訓練に本気で取り組むことや防災についてもっと知りたい、意識を高めたいという気持ちの醸成につなげることができた。

取組(ウ)については、体験そのものが生徒個々の経験となり、全校生徒への発表活動を通して生徒自身が主体的に防災教育に取り組むことへの意識の啓発及び醸成の場となった。

また、学校安全に対する評価として、学校評価アンケートを通して、「地震・台風・防犯等の対応や情報がよく知らされている」という質問に対してよくあてはまる・だいたいあてはまると回答した生徒が、令和6年度は56.2%であったが、令和7年度は77.9%と上昇。保護者に対する同様のアンケートは、89.7%から90.8%と微増。生徒にとって、防災教育が自分事となってきていることがうかがえる。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

学校運営協議会や3校連携などで、防災教育やそれにつながる働きかけや価値づけを通して防災教育につなげた。また、保護者や地域に学校だよりを通して防災教育についての取組の情報発信を行った。

(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

モデル地域の大清水中学校・小学校および県立藤沢清流高校の3校が連携し、児童生徒を巻き込んだ合同防災レクリエーション等を実施。

また、県外視察を行い、令和7年8月8～9日には石巻市震災遺構で震災体験と語り部の町歩きを通じて自分事として防災意識を高め、同年8月19～21日には大阪の体験型防災学習で震災の恐怖と減災の重要性について、さらに11月27～28日には熊本で事故・災害の伝承や事後対

応、安全教育の取組を学び、生徒の安全確保と生涯にわたる健康・安全の基礎づくりに必要な知識を習得した。

(4) その他の主な取組について

ア 生徒が主体的に行動できるよう、予告なしで訓練・着帽訓練など、様々な場面を想定した避難訓練の実施。

イ 3校交流において、防災レクの実施。

ウ NPO法人かながわ311ネットワークを講師とした防災教育講話の実施。

4 取組の成果と課題

【成果】

ア 大木聖子准教授講義・実践①②、佐藤敏郎先生講演会等を通して、教職員の振り返りから「失敗しても良い」「地域で起こりうる災害を想定する」など、防災への意識向上や職員・児童生徒の意識統一を図り、防災マニュアルの見直し・改善に取り組み、組織的な防災体制の充実がした。

イ これまでの避難訓練のあり方を年度の途中でも避難訓練のあり方を変更するなど、実践力の向上につながった。

ウ 訓練後の課題抽出が活発化し、改善のサイクルが形成されつつある。

【課題】

ア 学校と地域が連携し、災害時の共通理解を図っていく必要がある。

イ 地域における課題として、防災や学校に関する意識や関心に格差があることから、そのギャップを埋めていく工夫が求められる。

Ⅱ 文部科学省 学校安全総合支援事業

■ 横須賀市教育委員会

1 モデル地域の現状及び安全上の課題

モデル地域の現状

横須賀市

＜災害安全＞

拠点校：公郷中、池上中、岩戸小、夏島小

横須賀市の防災教育は、各学校の立地状況に応じた取組の充実が図ってきた。また、避難訓練の事前・事後指導、引き渡し訓練等により、防災意識を高める教育活動を行っている。横須賀市の立地上、首都直下地震による被害、地震による津波や高潮、台風等による風水害をはじめとした自然災害の切迫性が指摘される中、児童生徒の安全を守るためには、防災教育を総合的かつ体系的に推進することが必要である。

2 モデル地域の事業目標

本市の防災教育の重点課題と照らし合わせ、「(実践的な防災教育の実施)」に重点的に取り組むことで、学校防災に係る活動を充実させ、「防災対応能力」の基礎を培うなど、児童生徒の求められる資質・能力の育成を目指す。令和4年度には、「YOKOBOカード」を作成し、令和5年度にはその周知及び実践例の作成・発信を実施した。令和6年度から今年度にかけて、これまでの取組を生かし、市立学校での実践的な防災教育の実施を促すとともに、より発展的な内容（VR、ARを活用した体験型実践）を実施し、その内容を発信する。

3 取組の概要

(1) 安全教育の充実に関する取り組み

- ア 教職員の防災に関する危機管理能力と指導力向上のための研修の実施
- イ 子どもが「主体的に行動する態度」を育成する防災教育
 - (ア)「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点に基づいた授業実践
 - (イ)学習活動全体を意識した横断的な教育実践
- ウ 実践的な防災教育の実施
 - (ア)学校の立地、状況、児童生徒の実態を踏まえた避難訓練の実施
 - (イ)防災教育教材等を活用した授業実践の実施
- エ 専門家による指導・助言
- オ 教職員の防災に関する危機管理能力と指導力向上のための研修の実施
- カ 各校における実践的な防災教育の取組

(ア)VR、AR体験などを教材として取り入れた授業実践の実施

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

○実践委員を小・中学校から2名ずつ、教育委員会1名により構成し、取り組みを推進した。

(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

- ・夏期の教員向け研修の実施
- ・各校防災、安全担当者会における研修の実施

4 取組の成果と課題

【成果】

ア VR、AR体験授業実践の実施について

VRを活用した火事の煙体験や映像による疑似的な体験やARを活用した浸水体験を学校での体験学習として、海拔が低い学校（8校）に実施することができた。

また、視覚による体験型のVR、ARと、児童生徒が様々な災害時の状況を想定するYOKOBOカードを活用することで、より効果的に防災教育で求められる資質・能力の育成を図ることができた。

イ YOKOBOカードの活用場面の多様化

防災教育の場面だけではなく、教科等と横断的につながった活用方法も見られるようになった。国語の授業を導入場面や地域学習の一側面として、また避難訓練にも一部取り入れられた実践なども見られた。

【課題】

ア VR、AR体験を活用した体験学習は、防災を考える「きっかけ」づくりには十分な効果があるが、さらに学習を深めることや継続することには至っていない。

イ YOKOBOカード活用場面の多様化は効果的であるが、学校ごとに取り扱い差が大きい。YOKOBOカードの活用方法をより周知し、実践につなげられるようにしたい。